

くりとイノシシとわたしと

先週は台風が接近して子どもたちが登校した後で大雨洪水警報が発令され、下校時刻などでご心配をおかけしました。

台風による強風のために我が家のくりの木の実がたくさん落ちました。拾ってみるとお尻のところはまだ白いから、実って自然に落ちたのではなくて風で木が揺れたために落ちたことか分かります。このくりの木はわたしが子どもの頃に亡くなった父親が植えました。50年を経て、根もとの周囲は1メートルをはるかにこえ、近くにあるくすのきと明りを競うためか、見上げるほどの巨木に成長しています。歳月が過ぎたことと樹木の生命力の強さを感じさせます。

くりの実がたくさん落ちているけれども、その多くは何者かが食べ散らかし、鬼皮を吐き出しています。我が家のくりの収穫はいのししの競争です。まだ硬く閉じているいがくりを割って、くりの実を噛み、おいしい所だけを食べています。鼻や口の周りは痛くないのかな？口だけでは無理だろうから前足も使うのかな？。まさか座り込んで前足を手のようにしていがぐりを持って口で割っているなんてことはあるまいと思うけれども、ずいぶん上手に食べるものです。普通なら夜の間落ちたものを早朝に拾うのだろうけれども、いのししのおかげで朝拾っても収穫はほとんどありません。日中に落ちたものを夕方に拾うのが我が家のくり拾いです。

蚊取り線香を腰にぶら下げ、長袖で帽子をかぶり軍手をして長靴をはくのがくり拾いのスタイルです。蚊取り線香と長袖は、蚊に刺されないため、帽子はいつ落ちてくるかわからないいがぐりから身を守るためです。10メートルをはるかにこえる高さから落ちてくるのですから、頭に当たればトムとジェリーのトムさんみたいに目がとび出すほど痛い思いをすることになります。長靴は落ちているいがぐりを踏まないためというよりは、固く閉じているいがぐりを両足で押さえて割るためのものです。慣れればさして苦勞することなく割ることが出来ますし、割ってポンと蹴るとくりの実がころがり出ます。それを軍手をした手で拾えば痛い思いをせずに収穫できます。

たった二本のくりの木ですが、なにせ大木なもので時季になるとバケツに二杯程度にもなります。ただ、くりはその後が大変ですよ。ゆでても食べる時は鬼皮をむかなくてはならないし、くりご飯にするには鬼皮と渋皮をむかなくてはなりません。渋皮煮となると神経を使って少しも渋皮を傷つけないように鬼皮を取らないと、煮ている最中にくりがはじけてしまいます。わたしはくりは拾っても、少しも皮をむこうとはしないので、皮むきの作業はもっぱら家内の仕事です。

我が家のくりの木の旬はもう一二週間先だけでも、きっと今年もいのししの競争になると思う。

